

大阪・心斎橋で期待される 近未来型医療を目指す

～森ノ宮医療学園附属 AMRI 鍼灸院／AMRI クリニック

今春、森ノ宮医療学園附属 AMRI 鍼灸院・AMRI クリニック（以下 AMRI）が大阪・心斎橋（中央区）にオープンします。AMRI は学外設置第一号となる実習施設でもあります。メインスタッフの先生方に、開設までの経緯や、抱負、将来へのビジョンをうかがいました。（収録：2009年2月16日、於：森ノ宮医療学園専門学校）

多様性を求めて学外に実習施設を

——AMRI 開設の経緯をお聞きかせください。

森：まず、発想のベースにあったのは、学外に実習施設を作りたいという想いですね。従来の実習施設は、専門学校本校舎併設の附属診療所・鍼灸室がありますが、現在のところさまざまな限界、たとえば場所柄、外来患者さんが固定的になってしまっていることなどがあって、さらにもっと多様性のある実習ができる施設をということで、学外に設置場所を求めたわけです。

——心斎橋というと、大阪でももっともオシャレな場所ですね。どうして心斎橋だったのですか。

森：もちろん他にもいろいろ候補地はあったのです。心斎橋はその中の一つで、スペースを見たらそれなりに十分な広さだったこと、しかも周囲の雰囲気も、高級ブランドの店舗があったり、繁華だけど、落ち着いています。学生が実習を行う施設として、どういう土地柄であるかは重要なポイントですから。



モデルケースを学生に見せる

——附属診療所・鍼灸室のある森之宮の限界は、基本的に住宅地ですから、かなり様相は違ってきますね。

森：そうですね。森之宮限界に比べると、心斎橋限界は、就労人口は言うまでもなく、大阪はもとより関西圏からの通過人口もかなりあります。実習施設としては、できるだけ多くの患者さんに来院してもらうことが必要なので、そういう点でも、立地条件としてはいいと思うのです。あくまでも可能性ですが。

——いろんな患者さんに接することができるのはメリットですね。

森：そう、多くの臨床経験を積むのは必要なことです。それから、治療に際しての技術の習得だけではなくて、多くの患者さんが来ている治療現場を学生に見せることも重要です。国家資格は取れても、将来はどうだろうと、不安を抱いている学生もいると思います。そういう不安を拭い去

ることも指導する側としては大切なことで、そういう成功しているモデルケースを作ることも目的の一つなのです。

クリニックで西洋医学の実際に触れる

——クリニックが併設されていますね。

菊谷：はい、看板は「森ノ宮医療学園附属 AMRI クリニック」と「森ノ宮医療学園附属 AMRI 鍼灸院」となっています。これについては、現在の保険医療制度上の制約があって、こうせざるを得ないのです。

——どうしてクリニックを併設されたのでしょうか。

森：クリニックをつくることになった経緯は、まず心斎橋に決定したときに、この広さだったら、鍼灸だけでなく他の診療科も加えたクリニックにしてはどうかということで、大学の青木元邦先生にご相談したのが始まりです。

日比野佐和子先生も青木先生に紹介していただいたのです。

——クリニックを併設するメリットは？

森：附属診療所では行っていませんが、AMRI クリニックでは、鍼灸科学生にも実習として可能な限り診療現場に入る、さらに卒後研修も行えるようにしてけるようにと考えています。もちろん見学するだけとなりますが、実際に内科や循環器科等の診療を見ることは、これから臨床の世界に入って行こうとする学生にとって、医療に対する認識を深めることになると思います。

それから、クリニックとタイアップすることで、将来の鍼灸の位置づけも見えてくるでしょうし、ニーズを広げていくことにもつながっていくように思っています。

AMRI ってなに？

——ところで、AMRI の意味をご説明いただけますか。

日比野：AMRI は “Aging Management Related to Inner



beauty” の頭文字を取ったものです。直訳すれば「内面の美しさに関する年齢管理」となりますが、私たちはそこにもっと広い意味をもたせて、疾病予防・疾病治療を介して身体の中から体調を整え、健康になっていただくことを目標に掲げています。